

特集 第Ⅱ期 計画研究・公募研究の概要

文部科学省科学研究費補助金 特定領域研究

「古典学の再構築 20世紀後半の研究成果総括と文化横断的研究による将来的展望」

総括班からの報告

領域代表 中谷 英明

本特定領域は発足以来3年半を経過し、まもなく最終年度である平成14年度の研究に入る。いよいよこれまでの共同研究の成果を総括し、具体的な刊行物やシンポジウムなどでそれを提示してゆく段階にさしかかっている。ここには現時点における特定領域研究の概要とこれまで4年間の総括班研究の研究活動一覧を掲げる。ただし7調整班それぞれの活動については後の調整班報告に譲る。また第二期（平成13年度～14年度）の個々の計画研究・公募研究の概要は20頁以下に一覧を掲げる。

1. 特定領域研究「古典学の再構築」の概要

特定領域研究「古典学の再構築」は古典学を根本的に刷新することを目的として、平成10年8月から5年計画で発足した。

(1) 史上初の古典学の全主要領域の研究連携、(2) 高度の情報処理技術の応用、(3) 方法論や学的枠組みに潜む近代西歐的価値観の見直し、という3種の方法によって新しい古典学の構築に努め、また古典の新しい日本語訳を創出することを目標としている。

現在（平成13年9月）、評価委員4人、計画研究32件89人、公募研究41件53人、合計73件146人の研究者が参加し、総括班の統括の下に、「原典」、「本文批評と解釈」、「情報処理」、「古典の世界像」、「伝承と受容（世界）」、「伝承と受容（日本）」、「近現代社会と古典」の7研究項目に関し、古典学の諸領域を横断する共同研究を実施している。

2. 総括班の組織

「古典学の再構築」を統括する総括班研究は、以下の12名によって遂行されている。

領域代表 中谷英明

評価委員 藤沢令夫・高崎直道

調整班代表 池田知久・関根清三・徳永宗雄・内山勝利・中務哲郎・木田章義・月村辰雄

事務担当 丸井浩・高島淳

3. これまでの研究活動

A. 公開国際シンポジウムの開催

- (1) 「古典学の再構築に向けて」
平成10年12月27・28日 於京都大学紫蘭会館
基調講演：
 1. Michael WITZEL（ハーヴァード大学）
 2. 加藤周一（評論家）
 3. 上山春平（京都大学名誉教授）
- (2) 「いま古典を問う」
平成11年7月17・18日 於文部省統計数理研究所
基調講演：
 1. 石井紫郎（国際日本文化研究センター）
 2. 藤沢令夫（京都大学名誉教授）
 3. 今道友信（英知大学教授）
- (3) 「文明と古典」
平成12年3月24・25日 於日本学術会議・東京大学文学部；日本学術会議3研連（語学文学・西洋古典学・東洋学）と共同主催
基調講演：
 1. 袁錫圭（中国北京大学中国語言文学系（古文字学）教授）
 2. 服部正明（京都大学名誉教授）
 3. 石川忠久（二松学舎大学大学院教授）
- (4) 中国学分野国際シンポジウム「文化的制度としての中国古典」
平成12年7月15日・16日 於京大会館
基調講演：
興膳宏（京都大学名誉教授）
発表者：
 1. 李零（北京大学）

2. 陳平原 (北京大学)
3. 吳承学 (中山大学)
4. 林梅村 (北京大学)
5. 葛兆光 (清華大学)
6. 夏曉虹 (北京大学)

(5) 「現代世界と古典学」

平成12年9月22日・23日於紫蘭会館・京大会館

基調講演:

1. 久保正彰 (東京大学名誉教授)
2. Heinrich von STADEN (Princeton 大学教授)
3. Guenther POELTNER (Wien 大学教授)

(6) 「新しい古典学」

平成13年3月27日・28日 於日本学術会議; 日本学術会議3研連(語学文学・西洋古典学・情報学)と共同主催。

基調講演:

1. 高崎直道 (鶴見大学学長)
2. 吉田民人 (日本学術会議副会長) 検討。

(7) 「古典における新しい価値の発見」

平成13年9月6日・7日・8日 於一橋記念講堂

基調講演:

1. Oswyn Murray (Oxford 大学)
2. Michael Witzel (Harvard 大学)
3. Joerg Jeremias (Marburg 大学)
4. 葛兆光 (北京・清華大学)
5. Zhang Longxi 張隆溪 (香港城市大学)
6. Robert Dankoff (Chicago 大学)
7. 日高敏隆 (総合地球環境学研究所)

B. 広報委員会: ホームページをインターネット上に開設。

既刊のニューズレターのすべてを以下のホームページにおいて公開している。

<http://www.classics.jp>

C. 発表成果一覧

a. 刊行物

(1) ニューズレター『古典学の再構築』

- 1号 (平成10年10月・31頁)
- 2号 (平成11年2月・32頁)
- 3号 (平成11年3月・64頁)
- 4号 (平成11年9月・39頁)
- 5号 (平成12年1月・59頁)
- 6号 (平成12年4月・30頁)
- 7号 (平成12年7月・73頁)

8号 (平成12年11月・112頁)

9号 (平成13年7月・85頁)

10号 (平成14年1月・88頁)

(2) 『古典学の現在』

1号 (平成12年3月・112頁)

古典の伝承 死海写本と旧約研究

守屋彰夫

ヨーロッパにおける古典の伝承 西村賀子
インド暦プログラム PANCANGA について

矢野道雄

古典和歌における表現分析の手法

南里一郎ほか

日本古典文学文データベース(実験版)の試験公開

安永尚志

朱熹テキストの解読より

木下鉄矢

西洋古典の伝承史における予型論的視点の影響について 『牧歌』Ⅳと『オデュッセイア』を中心に

秋山 学

日本現存朝鮮古書のデータベース化について

藤本幸夫

2号 (平成13年2月・302頁)

特集: 文化的制度としての中国古典

古と今との出会い

興膳 宏

古典と現代: “現世からは新奇な発想を, 過去からは創造の鏡を”

張 少康

中国古典形成の第一期と第二期 周宣王の評価を中心に

小南一郎

二ヤ漢簡綜考 あわせて漢文化の西域における最初期の伝播について

林 梅村

漢代における古典の成立と変容

釜谷武志

「讀詩之法」 朱熹における古典の内在化

齋藤希史

規範としての古典とその日常の変容 元代類書『事林広記』所引法令考

金 文京

『詩牌譜』研究

吳 承学

明末清初才子佳人劇「情」観における理性的内実, およびその審美的構想

王 曖玲

古典詩と民間歌謡 明代公安派袁宏道の例

松家裕子

状況変化に対応する経学 中国古典に対する晩清の再解釈(一)

葛 兆光

晩清の女性教育における満漢対立 事件を読む

恵興自殺 夏 曉虹

伝統的書院の現代的転換 無錫国専を中心に

陳 平原

光緒二十四年の古文

平田昌司

3号(平成13年9月・645頁)

ヘーゲルと『老子』 堀池信夫
イスラーム法の存立構造 [ハンバリー派フィ
クフ神事編] 中田 考

4号(平成13年11月・121頁)

禅林における「詩の総集」について 受容の
実態と編纂意図 朝倉 尚

- (3) 『第I期研究成果中間報告』古典学の再構築」
総括班編(平成12年9月・146頁)
- (4) 『第I期研究成果報告』「古典学の再構築」総
括班編(平成13年1月・346頁)
- (5) 『第I期公募研究論文集』「古典学の再構築」
総括班編(平成13年8月・454頁)
- (6) 池田知久著『郭店楚簡老子研究』
- (7) 東京大学郭店楚簡研究会編『郭店楚簡の思想
史的研究』第3巻(平成12年3月・東京・224
頁)
- (8) 東京大学郭店楚簡研究会編『郭店楚簡の思想
史的研究』第4巻(平成12年8月・東京)
- (9) 東京大学郭店楚簡研究会編『郭店楚簡の思想
史的研究』第5巻(平成13年2月・東京・236頁)
- (10) 渡辺雅弘「日本西洋古典学文献史(一) 切
支丹時代から昭和二十年までの著作文献年表
」(平成13年3月・京都・387頁)
- (11) Atsushi KANAZAWA, *Index to Kumarila's
Çlokavarttika.* (平成13年3月・東京・197頁)
- (12) Toru MARUYAMA, *Keyword-in-context In-
dex of the Grammatica da Lingoagem Portu-
guesa(1536) by Fernão de Oliveyra*
(平成13年5月・神戸・508頁)

b. 雑誌論文・座談会

- (1) 岩波書店発行『文学』(平成12年7・8月号)
において「転換期の古典」と題する特集が組
まれた。本特定領域からの執筆者と論文は以
下の通り。
 - a. 中川久定・興膳宏・中谷英明(本特定領域
外から吉川弘之・久保田淳氏が参加)「座
談会・転換期における古典の役割」pp. 21
- 43.
 - b. 中務哲郎「西洋古典学の風景」pp. 44 - 48.
 - c. 鎌田繁「注釈における革新 モッラー・サ
ドラーのクラーン注解」pp. 49 - 68.
 - d. 安永尚志「日本文学研究とコンピュータ」
pp. 85 - 93.
 - e. 今西祐一郎「新刊紹介・秋山虔編『王朝語
辞典』」p. 156 - 157.

(2) 日本学術振興会刊行『学術月報』(平成12年
11月号)において「古典学研究 現代におけ
る古典学の役割」と題する古典学特集が組
まれた。本特定領域からの執筆者、論文は、
以下の通り。

- a. 中谷英明「古典学研究 現代における古典
学の役割」pp. 4 - 8.
- b. 月村辰雄「古典用語のディスクール」pp. 9
- 12.
- c. 興膳 宏「中国古典の過去と現在」pp. 13
- 17.
- d. 内山勝利「古代ギリシア・ローマ世界とわ
れわれ」pp. 18 - 21.
- e. 五味文彦「現代における古典の価値(日本)」
pp. 22 - 24.
- f. 木田章義「日本における古典(の受容)」
pp. 25 - 28.
- g. 池田知久「中国古典学の新しい動き」pp. 25
- 28.
- h. 間野英二「『パール・ナーマ』校訂本作
成に当たっての選択の問題」pp. 32 - 35.
- i. 御牧克己「チベット語の原典」pp. 36 - 39.
- j. 関根清三「古典を解釈するということ 聖
書に例を拾いつつ」pp. 40 - 42.
- k. 平田昌司「終身齊家治国平天下」pp. 43 -
45.
- l. 杉山正明「文明圏を超えて モンゴル時代
の世界像」pp. 46 - 50.
- m. 安永尚志「日本古典文学作品本文データベ
ース(実験版)の試験公開」pp. 51 - 54.
- n. 徳永宗雄「古典学とコンピュータ」pp. 55
- 57.
- o. 池田知久, 内山勝利, 中川久定, 中谷英明
(本特定領域外からの参加者は、石井紫郎,
吉川弘之)「座談会・現代における古典学
の役割」pp. 62 - 83.

4. 対外的活動

- (1) 総括班は日本学術会議に対し、「新しい価値観
の確立と古典学研究所の設置について」という
提案を行い、平成12年3月27日付けで「語学文
学」、「西洋古典学」、「東洋学」の3研究連絡委
員会の対外報告として採択された。
- (2) 総括班は平成13年9月25日、日本学術会議第1
部会に対し、「古典学の重要性と古典学ネット
ワークの必要性について」という提案を行った。
この提案は現在第1部において審議中である。